

N K H

長岡市立科学博物館報

No.49 1986

特集・信濃川の河辺植物



N K H

49号

特集・信濃川の河辺植物  
1986年3月

はじめに

信濃川は本邦最長の河川で、関東山地の甲武信岳を源に、千曲川と呼ばれて長野県を流れ下り、新潟県に入つて信濃川と呼ばれます。合わせて主流の延長は367km、流域面積は12,050km<sup>2</sup>。この長い河辺に生育する植物は上流、中流、下流によって種類や群落は著しく異なり、また時おり襲う洪水は河辺植物に大きな被害を与えます。

こゝでは、新潟県域の延長153kmの信濃川に限って植生を概観しますが、これを信濃川あるいは身近な河川の自然に目を向けるきっかけにしていたければ幸いです。

(植物研究室 西山邦夫)



図1. 通常水位の河辺景観（長岡市長生橋付近）

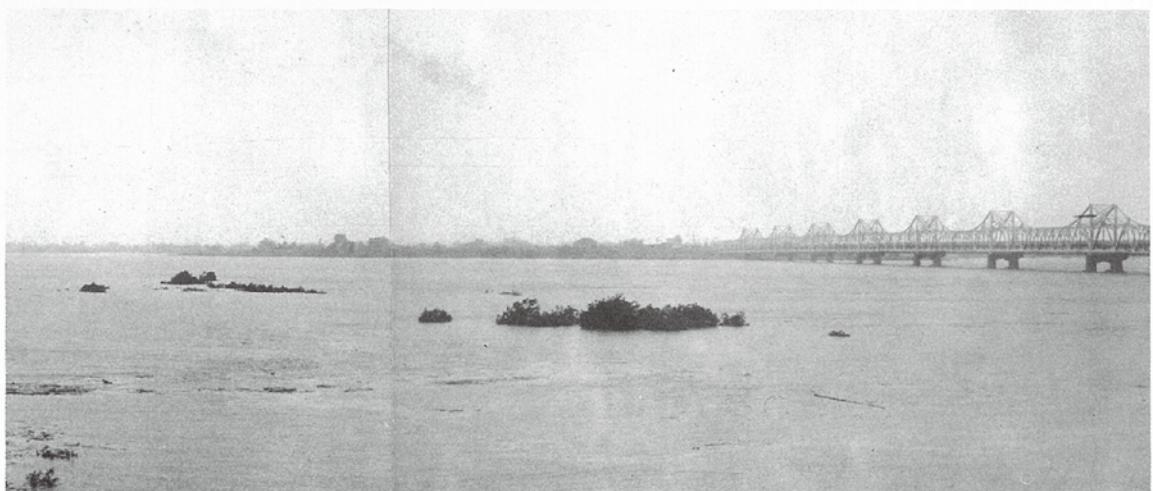


図2. 洪水時の増水状況（長岡市長生橋付近 '78. 6. 26）

◀ 表紙写真 長岡市長生橋(850m)付近の景観

(表紙デザイン 本間正三)

# 信濃川の河辺植物

信濃川は、津南町で安山岩帯を貫き、魚沼丘陵と関田山脈の間を貫流し、長岡市の南方の妙見付近から沖積平野に出て広大な日本最大の米作地越後平野を形成する。

流れは大河津で旧信濃川と新信濃川に二分し、新信濃川は寺泊町で日本海にそゝぐ。旧信濃川は越後平野を流れ、下流で西川と中之口川を分流し、新潟市で再び合流して大河となり、関屋分水路と新潟西港で日本海にそゝぐ。

**気候** 流域は日本海気候区にあり、特に冬期には日照時間が少なく、多湿で、年間降水量の約半分は12月から2月に集中して年最高となりその大部分は雪となって降り積る。積雪量は、上流部の山間地、津南町、中里村、十日町市、川口町、小千谷市と長岡市付近が多く、所によつては4~5mにもおよぶ。長岡市から下流は越後平野となって積雪量は上流部と比べてはるかに少なく、海岸部の新潟市域では積雪日数はほとんどない。

**支流** 主なものを上げると津南町で、苗場山を源にする中津川、中里村で清津川、川口町で群馬県との県境に立ちはだかる谷川連峰を主に源にする魚野川、長岡市で丘陵山地を源にする渋海川と太田川、与板町で黒川、栄町で守門岳を源にする刈谷田川、三条市で粟ヶ岳・守門岳を源とする五十嵐川、加茂市で粟ヶ岳を源にする加茂川、新潟市では福島県から流れ下る阿賀野川の支流小阿賀野川が順次流入する。

**水量** 増水時期は融雪期の3月下旬から4月、夏の梅雨、秋の台風時であり、水量が警戒水位に達すると河辺のかなりの部分が冠水するが、この水位をこえることは年2~3回程度である。また、上流部中里村宮中には発電用のダムがあり、大量に取水し、バイパスを通じて下流の小千谷市山本で放水されるので、この区間の中里村、十日町市、川口町と小千谷市的一部分の流域では常に水量は少なく、河辺植物の生育にいくつかの影響がある。

**形態** 最上流部県境河辺の標高は約230mで、河川形態からは激流が岩をかむ河川の上流部ではなく、中流域と下流域で占められる。中流域は最上流部の津南から流域の中程に位置する長岡市近付まで続き、これから下部が下流域となって越後平野を右に左に大きく蛇行して日本海にそゝぐ。

中流域河辺の特色は、水辺から高水敷にかけ広い礫地が占め、所によつては砂地が介在する。高水敷は広くニセアカシア林が発達し、冠水の被害が少ないので農地や

公園、運動場などに利用される。下流域は挺水路幅が広く、河辺には高水敷が発達し、水田や畑地、果樹園などがあり、所によつては挺水路に砂州が発達するが、流水はほぼ河幅いっぱいに流れ下る。

**植生帯** 河辺には流水に沿つていくつかの植生帯が発達する。このような植物群落の配置のちがいは、土壤の含水量や土壤組織、腐植質の多少などに関するが、さらに年数回みまう増水による冠水状況の差など立地条件の影響も大きい。それらを増水の植物群落にあたえる被害の度合で、河辺を不安定帶、半安定帶、安定帶に分けられ、さらに、流水によって浸蝕された河岸段丘崖がありそこに成立する群落もまた異なる。

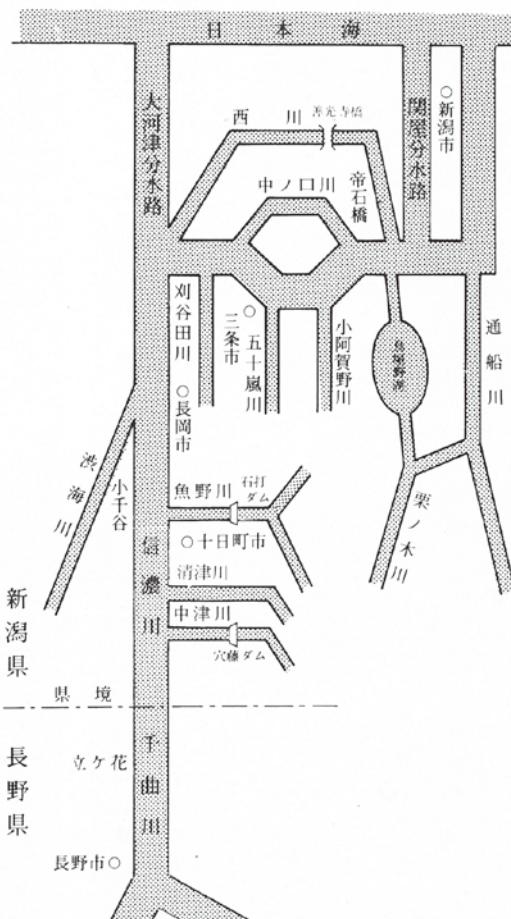


図3. 信濃川水系模式図（建設省北陸地方建設局「信濃川」より）

## 景 観

最上流部、津南町域の信濃川は、河床が低く、河沿いには平坦な地形、大割野面、正面面、貝坂面、朴ノ木坂面、卯ノ木面、米原面、谷上面と呼ばれる河岸段丘が発達しており、その規模は日本一といわれる。

流水は段丘崖の裾を洗って流れ下り、蛇行する内側に巨岩の堆積する不安定帶、半安定帶を作り、宮中ダムに至り両岸いっぱいに湛水する。ダムの下流十日町から小千谷にかけては、増水期の放水時を除き常に水量は少なく、河辺は広い不安定帶、半安定帶や安定帶が発達しており、ニセアカシア林、それにシロヤナギ林が成立している。

小千谷市山本山付近では蛇行が最も大きく、魚野川を合せ、長岡市妙見付近から沖積平野に出る。長岡市付近は中洲も発達し、安定帶には農耕地、運動場が多い。低平な越後平野を蛇行する流れは、与板町に入って下流域の形態を呈し、河辺は不安定帶、半安定帶が狭少となり、安定帶には水田、畠地、果樹園が拓かれている。

全般的に下流域は、市街地や農耕地帯を流れ下るので護岸堤がよく整備され、河辺の環境は単調で植物の種類数は乏しい。



図4. 日本一大規模な河岸段丘（津南町）

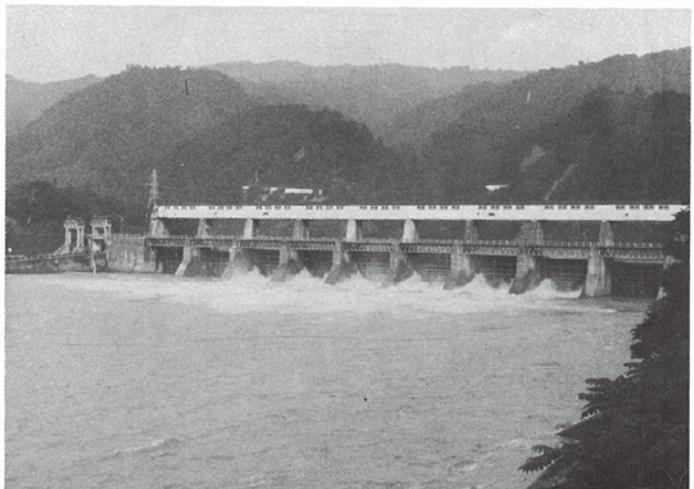


図5. 増水時、放水した宮中ダム（中里村）

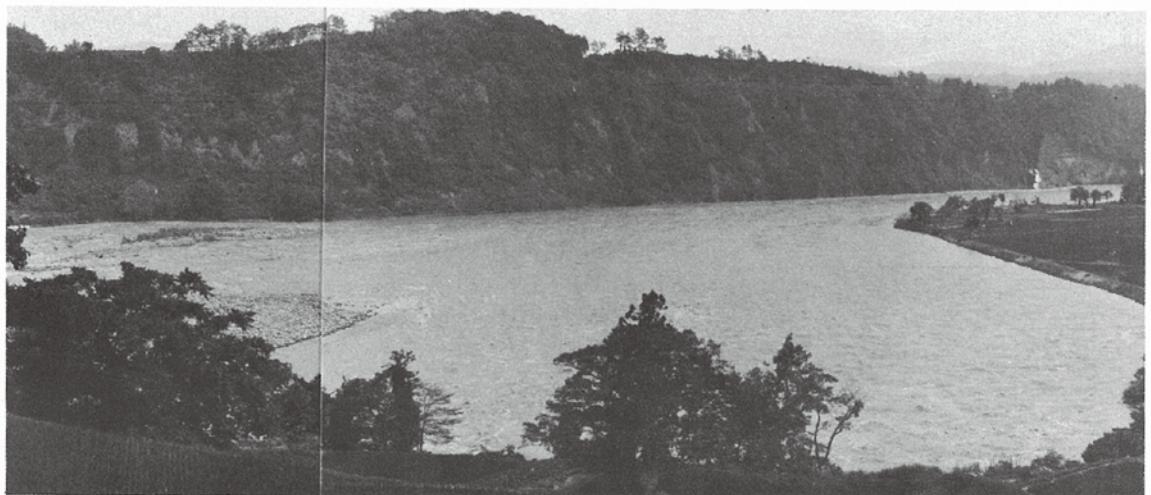


図6. 段丘を浸蝕し、蛇行帶内側に広い河原をつくる（津南町）



図7. 長岡市妙見付近から越後平野に流れ出る（長岡市）

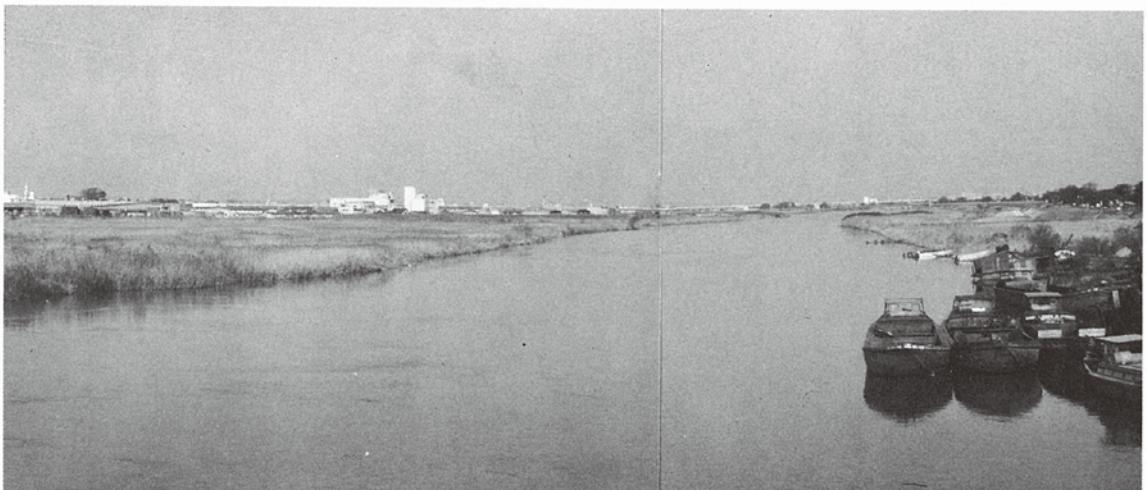


図8. 低平な越後平野を流れ下り、はるかに新潟市街地を望む（新潟市）

### 河辺の植物

河辺の植生帯には、それぞれの環境に適応した植物が生育し多様な群落を形成している。分布の確認された河辺植物数は、十日町市周辺94科399種、小千谷市周辺92科410種、長岡市域103科482種、長岡～寺泊河口間78科248種、大河津～新潟西港間68科266種などで、次に河辺に配列する植生帯別に概要を記述する。

**不安定帯** 流れに最も近く、増水の度に植生が被害を受ける礫地や砂礫地、あるいは泥土のたまる低平な中洲地域である。イヌガラシ、アメリカセンダングサ、ケイヌビエ、オオクサキビ、ヌマガヤツ



図9. 不安定帯の植物群落



図 10. 半安定帯の植物群落



図 11. 安定帯に成立した十日町市域のニセアカシア林



図 12. 段丘崖裾に繁茂した蔓性のアレチウリ

り、オオイヌタデなど一年生草本が主で、それにカワヤナギなどわずかな種類の木本類がまじる。

この植生帯は上流から長岡市付近まで多く、下流域ではほとんど見られない。

**半安定帯** 不安定帯の背後域で冠水回数が少ない。砂礫質土壤地域で、ススキ、カワラハハコ、カワラヨモギ、メドハギなど多年生のものも多い。このような地域の植物群落の発達には、ヤナギ類が先駆植物として重要なはたらきをする。ヤナギは幹や枝が柔軟でよくたわみ強い水流にも流失しないで、裸地にも定着し、そのヤナギを足だまりに草本植物が進出して緑の島のように群叢し群落を拡大していく。この地域にはヤナギの群落、オオブタクサ、ケアリタソウ、カワラヨモギ、アメリカセンダングサ、カワラケツメイなどの草地もある。また、河川跡の水溜りや水路もあって、湿地や水辺にはマコモやヨシの群落、浮水植物のフトヒルムシロ、ヒシ、沈水植物のエビモ、ホザキノフサモなど見られ、河川の自然植生がよく保たれている地域である。

この植生帯は十日町市から長岡市にかけて顕著なものが多い。

**安定帯** 河辺で最も面積が広く、ほとんど洪水の影響を受けないので、水田、畠、果樹園、牧草地、野球場、テニス場などが拓け、自然の高木林では一部にニセアカシア林、シロヤナギ林、オニグルミ林などがあり、またそれに低木のシロヤナギ、ヌルデ、ネムノキ、タニウツギの混交する林も成立する。安定帯は人手のかかった地域が多いので、スズメノカタビラ、タネットケバナ、スペリヒュ、オランダミミナグサ、ヒメムカシヨモギ、メヒシバなど耕地雑草や人里植物も多い。

ニセアカシア林は十日町市付近に大規模なものが見られる。

**段丘崖** 河岸段丘が流水の浸蝕作用を受け、直接流路に接する河岸をはじめ、安定帯の背後には多くの段丘崖が形成される。崖足にかけては周辺の山地性植物の進出が著しく、段丘崖は河辺への植物

進入の重要な役割を持っている。

崖は垂直にちかく、果実や種子の落下、あるいは崖崩れなどで、植物が下流に運ばれ分布を広げることも多い。水のしたたり落ちる崖には、ヒメヤシャブシ、タニウツギ、オオイタドリ、オオバギボウシ、タヌキラン、コシジシモツケソウ、ゼンマイ、ダイモンジソウなど、乾燥

した斜面では、ヤマネコヤナギ、ウワミズザクラ、ハイイヌガヤ、トリアシショウマ、シシガシラなどが生育する。

この植生帯は上流部に多く、小千谷市付近まで続く。

### 珍らしい植物

フローラの中から、信濃川河辺域として分布や生態の上で注目すべき種を若干選び解説する。

**ヤシャゼンマイ** 日本特産種で、北海道（南部）、本州、四国、九州の谷川などの水辺に近い岩壁に生えるが、県内では信濃川津南町域の河辺が唯一の産地である。

**オオバヤナギ** 県内の分布は阿賀野川水系、上信越国境を源にする水系など内陸部の河川沿いに分布し平場の河辺では稀である。信濃川では十日町市域の砂礫地のニセアカシア林に混生する。

**カワチシャ** 本州、四国、九州からアジア熱帯にかけて分布し、川岸や田などの湿地に生える。目立たない植物で、県内では信濃川長岡市域の水辺のほか、新潟市寺尾、青山で採集されている。

**イタドリ** 高海拔の県境沿いの山岳地に多く、低海拔の分布は珍らしい。岩船郡山北町（5m）、上越市（20m）に知られており信濃川では津南町から小千谷市域の砂礫地の半安定帯に生育する。

**イヌハギ** 県内では主として海岸砂丘に分布し、内陸では珍らしく、小千谷市信濃川河辺の高水敷から堤防に生育する。

**コウボウ** 北半球の温帯に分布し、県内では稀産で、小千谷市信濃川河辺の半安定帯の砂礫地に群生する。

**エゾノサヤヌカグサ** サヤヌカグサの母種であり、小穂は丸みがあり剛毛が著しい。北海道、本州、四国、九州の水辺や湿地に生え、県内での分布は少なく、長岡市域の信濃川湿地に大群落を作る。



図13. 海岸砂丘に多いイヌハギ



図14. 県内稀産のコウボウ

## 帰化植物

河辺は繰り返し増水の影響を受け、あたかも人手がたえず加わっているかのような環境にあるので、植物群落の遷移もはげしく、帰化植物の侵入も著しい。

現在22科91品が確認されており、薬草のツルドクダミ、花粉ぜんそくをおこすブタクサ、美しく容姿を競うキヌガサギク、セイヨウノコギリソウなど多数の種が生育する。また、その地域の開発の度合を知る帰化率(帰化植物数／全植物数×100)は、十日町市周辺18科47種で11.8%，小千谷・川口町域16科52種12.6%，長岡市周辺20科61種12.6%，長岡市から寺泊河口間16科43種16.9%，大河津分水から新潟市西港河口間17科55種20.6%などであり、下流の平野部に下るにしたがって高率となっている。

**ツルドクダミ** 中國原産の多年草で、1720年薬用とし輸入され各地に野生化しており、特に東京周辺に多いという。根茎は地中を横走し、ときに肥大した塊状根を作り、これを何首烏(カシュウ)と呼び強壮薬として用いる。信濃川では小千谷市域の堤防に生育する。

**グンバイナズナ** ヨーロッパ原産の多年草で、北海道、本州、四国、九州の各地に広く分布し、県内でもかっては荒地などに多く見られたというが、現在では稀産である。小千谷市域の半安定帶の砂地に生育する。

**アレチウリ** 北米原産のつる性一年草で、1952年静岡県の清水港で最初に採集されたという。信濃川では上流域の段丘崖裾、全域のヤナギ低木叢や護岸堤周辺に旺盛に繁茂し、果実のとげは簡単にぬけ衣服などにつくと肌を刺し始末に負えない。

**ブタクサ・オオブタクサ** 北米原産の一年草で、県内でも分布域が広ろまっており、共に花粉症の原因になるという。ブタクサは主に安定帶にオオブタクサは半安定帶に生育する。



図15. 中國原産で薬草になるツルドクダミ



図16. 北米原産で花実のとげが鋭いアレチウリ



図17. 北米原産で花粉症を引き起すブタクサ

表1. 信濃川河辺の帰化植物

植物名	原産地	分布域	植物名	原産地	分布域
双子葉(離弁花類)			40.タチイヌノフグリ	欧亜～アフリカ	全 域
タデ科			41.オオイヌノフグリ	欧亜～アフリカ	下流域
1.ツルドクダミ	中 国	小千谷市	オオバコ科		
2.オオケタデ	東南アジア・中国	全 域	42.ヘラオオバコ	欧 洲	津南町～小千谷市
3.ヒメスイバ	ヨーロッパ	全 域	ウリ科		
4.エゾノギシギシ	欧亜大陸	全 域	43.アレチウリ	北アメリカ	全 域
アカザ科			キク科		
5.シロザ	欧亜大陸	全 域	44.ブタクサ	北アメリカ	全 域
6.アカザ	インド・中国	全 域	45.オオブタクサ	北アメリカ	津南町～長岡市
7.コアカザ	欧亜大陸	全 域	46.アメリカセンダングサ	北アメリカ	全 域
8.ケアリタソウ	南アメリカ	全 域	47.ヒレアザミ	欧亜大陸	津南町
ヒユ科			48.オオキンケイギク	北アメリカ	全 域
9.ホソアオゲイトウ	熱帯アメリカ	全 域	49.ダンンドボロギク	北アメリカ	下流域
ヤマゴボウ科			50.ハルシャギク	北アメリカ	全 域
10.アメリカヤマゴボウ	北アメリカ	全 域	51.フランスキク	欧 洲	全 域
ザクロソウ科			52.ブタナ	欧 洲	十日町市・長岡市
11.クルマザクロソウ	南北アメリカ	十日町市～下流	53.キヌガサギク	北アメリカ	長岡市
スペリヒュ科			54.ヒメジョオン	北アメリカ	全 域
12.ヒメマツバボタン	熱帯アメリカ	新潟市	55.ヒメムカシヨモギ	北アメリカ	全 域
ナデシコ科			56.ハルジョオン	北アメリカ	全 域
13.オランダミミナグサ	欧 洲	全 域	57.オオアレチノギク	南アメリカ	下流域
14.ノハラナデシコ	欧 洲	小千谷市	58.キクイモ	北アメリカ	津南町～小千谷市
15.ムシトリマンテマ	中～南アメリカ	津 南	59.ハキダメギク	熱帯アメリカ	新潟市
16.ムシトリナデシコ	欧亜大陸	全 域	60.オオハンゴンソウ	北アメリカ	小千谷市
17.シロサムトリナデシコ	欧亜大陸	津南町・長岡市	61.セイタカアワダチソウ	北アメリカ	小千谷市
18.マンテマ	ヨーロッパ	新潟市	62.オオアワダチソウ	北アメリカ	十日町市から下流
アブラナ科			63.オニノゲシ	欧 洲	全 域
19.マメグンバイナズナ	北アメリカ	全 域	64.ネゲン	欧 洲	全 域
20.グンバイナズナ	欧 洲	小千谷市	65.アカミタンボボ	欧 洲	新潟市
21.オランダガラシ	欧 洲	津南町・十日町市	66.セイヨウタンボボ	欧 洲	小千谷市から下流
マメ科			67.セイヨウノコギリソウ	欧 洲	長岡市
22.ウマゴヤシ	欧 洲	新潟市	68.オオオナモミ	北アメリカ	全 域
23.イタチハギ	北アメリカ	全 域	69.オナモミ	アジア大陸	全 域
24.ニセアカシア	北アメリカ	全 域	70.イガオナモミ	南・北アメリカ・南欧	全 域
25.シロ・サナガハギ	中央アジア	津南町	单子葉		
26.アカツメクサ	欧 洲	全 域	イネ科		
27.シロツメクサ	欧洲・北アメリカ	全 域	71.コヌカグサ	北半球の温帶	全 域
センダン科			72.ハルガヤ	欧亜大陸	津南町
28.チヤンチン	中 国	全 域	73.カラスムギ	欧洲・西亞・北アメリカ	新潟市
トウダイグサ科			74.カラスノチャヒキ	欧亜大陸	津南町
29.オオニキソウ	北アメリカ	津南町・小千谷市	75.カモガヤ	欧洲～西アジア	津南町
30.コニシキソウ	北アメリカ	全 域	76.シナダレスズメガヤ	南アフリカ	全 域
アカバナ科			77.コスズメガヤ	欧亜大陸	新潟市
31.アレチマツヨイグサ	北アメリカ	全 域	78.オニウシノケグサ	欧 洲	全 域
32.オオマツヨイグサ	北アメリカ	津南町	79.ヒロハウシノケグサ	北半球の温帶	全 域
双子葉(合弁花類)			80.ナギナタガヤ	コーカシア～北アフリカ	全 域
ヒルガオ科			81.ムギクサ	欧 洲	新潟市
33.アメリカネナシカズラ	北アメリカ	全 域	82.シラゲガヤ	欧 洲	津南町～長岡市
34.マルベレコウソウ	熱帯アメリカ	津南町・小千谷市	83.ネズミムギ	欧亜大陸	長岡市から下流
ナス科			84.ホソムギ	欧 洲	新潟市
35.イヌホウズキ	アジア北東部	長岡市	85.オオクサキビ	北アメリカ	全 域
ムラサキ科			86.カナリークサヨシ	地中海沿岸	小千谷市
36.コンフリー	欧 洲	津南町・長岡市	87.オオアワガエリ	欧 洲	全 域
シソ科			88.ナガハグサ	北半球の温帶	全 域
37.ヒメオドリコソウ	欧 洲	十日町市から下流	89.ネズミノオ	東南アジア・中国	小千谷市
ゴマノハグサ科			アヤメ科		
38.アメリカカゼナ	北アメリカ	長岡市	90.キショウブ	欧 洲	全 域
39.ヒロードモウズイカ	欧 洲	全 域	91.ニワゼキショウ	欧 洲	関屋分水路

## 参 考 文 献

- 1) 長田武正 (1974) 日本帰化植物図鑑。北隆館。
- 2) 西山邦夫・坪谷富男・荒井キミ (1977) 新潟県長岡市信濃川の河辺植物第1報～第3報。長岡市立科学博物館研究報告書No.12～No.14。
- 3) 西山邦夫・荒井キミ (1980) 信濃川の河辺植物第1報～第7報、長岡市立科学博物館研究報告書No.15～No.21。
- 4) 津南の生いたちを探る会実行委員会 (1985) 河岸段丘セミナー、日本一の河岸段丘から学ぶ津南の生いたち、津南町役場。

### 昭和60年度事業報告

#### 資料収集・調査

##### 〔地学研究室〕

- 地質調査 小千谷市：5月  
中魚沼郡津南町：8月（2回）
- 研究協議 東京都：9月  
新潟市：2月

##### 〔植物研究室〕

- 植物分布調査 十日町市：6月  
新潟市：6月、7月（2回）、3月  
中魚沼郡津南町：6月（2回）、7月  
(2回)  
柏崎市：6月

##### 〔昆虫研究室〕

- 昆虫分布調査 栃尾市：5月、6月、7月  
南魚沼郡湯沢町：5月、6月、7月  
(2回)  
北魚沼郡守門村：7月  
南魚沼郡六日町：9月  
中頸城郡妙高高原町：9月  
糸魚川市：11月  
佐渡郡金井町：3月

##### 〔動物研究室〕

- 鳥類分布調査 三島郡寺泊町：4月  
岩船郡粟島浦村：5月  
栃尾市：5月、6月（3回）  
中魚沼郡津南町：6月  
南蒲原郡下田村：6月  
北魚沼郡守門村：7月  
糸魚川市：8月、10月  
三島郡出雲崎町：1月  
西頸城郡能生町：3月

##### 〔歴史民俗研究室〕

- 民俗調査 中頸城郡妙高村：7月  
十日町市：8月  
新潟市：8月

##### 〔考古研究室〕

- 研究協議 新潟市：2月

#### 学会・研修会・協議会

- 日本考古学協会第51回総会 4月28・29日、東京都  
(参加：駒形学芸員)
- 新潟県博物館協議会総会 5月10日、新潟市 (参加：  
鈴木館長)
- 第27回北信越博物館研究協議会 5月28・29日、富山  
市 (参加：鈴木館長)
- 新潟県地学教育研究会第24回総会 6月8・9日、中  
頸城郡妙高高原町 (参加：加藤技師)
- 新潟県博物館協議会運営研究会 6月18・19日、三島  
郡寺泊町 (参加：鈴木館長、佐藤主事)
- 日本第四紀学会 8月31日・9月1日、長野市 (参加  
：加藤技師)
- 日本植物学会第50回大会 10月2日～4日、新潟市  
(参加：西山館長補佐)
- 日本民俗学会年会 10月4日～6日、佐倉市 (参加：  
鈴木館長)
- 日本鳥学会大会 10月4日～6日、長野市 (参加：渡  
辺主査)
- 日本昆虫学会第45回大会 10月20・21日、名古屋市  
(参加：山屋技師)
- 新潟県きのこ同好会定例総会 10月26・27日、三島郡  
越路町 (参加：西山館長補佐)
- 新潟県博物館協議会学芸員等職員研修会 10月31日・  
11月1日、中蒲原郡横越村 (参加：鈴木館長、山屋  
技師)
- 第33回全国博物館大会 11月4日～6日、熱海市 (參  
加：鈴木館長)

#### 普及活動

- 地層をしらべる会 6月2日 真木林道、参加者6人。7月21日 科学博物館、参加者12人。
- 気象をしらべる会 講師：県立長岡高校（関原分校）  
教頭 中村正巳先生、中央公民館第1教室 1月26日  
参加者9人。2月2日 参加者5人。
- 春の植物を観察する会 5月12日 柿川上流、講師：新潟市立総合教育センタ  
ー 尾崎富衛先生、参加者35人。
- 雪椿さし木講習会 7月14日 悠久山公園、参加者4人。

## ◦親子の夏の植物観察会

7月28日 柿川上流, 講師: 新潟市立高志高校教諭

牧野恭次先生, 参加者17人。

## ◦キノコをしらべる会

9月29日 柿川上流, 講師: 県立自然科学館 伊藤尚威先生, 参加者78人。

## ◦雪国植物の越冬を観察する会

11月17日 柿川上流, 講師: 植物研究家 坪谷富男先生, 参加者16人。

3月30日 柿川上流, 講師: 新潟大学助教授 石澤進先生, 参加者15人。

## ◦昆虫相をしらべる会

柿川上流周辺に分布する昆虫類の生息状態を調査する。講師: 昆虫研究家 樋熊清治先生。

5月19日 参加者20人。6月16日 参加者16人。7月21日 参加者29人。8月18日 参加者27人。9月15日 参加者23人。

## ◦野鳥相をしらべる会

信濃川左岸流域(長生橋~長岡大橋)周辺の野鳥類の生息状態を調査する。

4月28日 参加者50人。5月26日 参加者26人。6月30日 参加者14人。7月28日 参加者32人。8月25日 参加者16人。9月29日 参加者30人。10月27日 参加者14人。11月24日 参加者13人。12月22日 参加者14人。

## ◦野鳥集会と探鳥会

6月1・2日 八方台周辺, 参加者35人。

## ◦悠久山探鳥会

11月10日 悠久山~百間堤, 参加者19人。

## ◦冬鳥さよなら探鳥会

3月16日 信濃川右岸(長生橋上流), 講師: 長岡市立表町小学校教頭 井口忠先生, 参加者26人。

## ◦柿川の自然をたずねる会

8月11日 柿川上流~河口, 参加者72人。

## ◦第34回生物標本展示会・第27回自然科学写真展示会

10月8日~13日 会場 中央公民館大ホール 出品者数477人, 出品点数11,867点。

## ◦第22回県内小・中・高校生生物研究発表会

10月13日 会場 中央公民館第2教室 発表 小学生の部 13題。中学生の部 4題。高校生の部 2題。

## ◦科学博物館講演会

11月16日 中央公民館第2教室 演題: 昔話の背景—昔話の世界性と民間信仰— 講師: 昔話研究家 水沢謙一先生。歴史民俗研究室の報告 王神祭の本義当館館長 鈴木昭英。

## 出版物

## ◦館報(N K H)

第48号 生物研究発表会特集

700部

第49号 特集・信濃川の河辺植物 700部

## ◦博物館研究報告 第21号

◦新潟県およびその周辺地域における

ユキツバキの分布図をとりまく植物群

—2. レンプクソウ分布型— 石沢 進

◦津南一志賀地域に分布する志久見川火山岩層

および鳥甲火山噴出物の古地磁気(予報) 加藤正明

◦信濃川の河辺植物(第7報) 西山邦夫・荒井キミ

◦長岡市とその周辺のオサムシ 山屋茂人

◦新潟県糸魚川市南西部のカミキリムシ 山屋茂人

須藤弘之

◦新潟県出雲崎港におけるカモメ類の個

体数とその季節変動 渡辺 央

◦横山遺跡試堀調査概報 駒形敏朗・岩崎 均

◦新潟県における縄文早期・前期の基礎的研究(3)

駒形敏朗・石原正敏・小熊博史

◦王神および王神祭 鈴木昭英

## 主な資料寄贈(敬称略)

## ◦昆虫資料

タリクリアカネ(西蒲原郡卷町角田山産・新潟県初収集) 1点 栃尾市立荷頃中学校 土屋 泉

## ◦民俗資料

薬研など 10点 長岡市福島町 遠藤 実

長着など 15点 長岡市大槻高島町 丸山清二

モンベなど 7点 長岡市大槻高島町 船岡孝作

唐箕など 31点 長岡市大島本町3 大森誠起

防空頭巾など 7点 長岡市日赤町1 水沢歳一

## 昭和60年度月別入館者数

月別	個人			団体			資料照会			計
	大人	子供	团体数	大人	团体数	子供	大人	子供		
60. 4	345	480	—	—	26	2,480	22	2	3,329	
5	538	380	1	13	60	5,237	34	1	6,203	
6	420	466	4	110	5	305	45	1	1,347	
7	371	414	5	188	—	—	59	6	1,038	
8	830	1,187	4	159	2	73	51	71	2,371	
9	392	320	4	67	1	72	38	6	895	
10	806	734	5	157	5	340	156	—	2,193	
11	342	264	3	55	—	—	32	2	695	
12	192	113	—	—	—	—	8	—	313	
61. 1	97	50	1	11	—	—	11	—	169	
2	188	153	—	—	—	—	9	—	350	
3	525	516	1	70	1	13	6	—	1,130	
計	5,046	5,077	28	830	100	8,520	471	89	20,033	

## 職員の異動

退職(3月31日付)

五十嵐正一(主任)

転入(4月1日付)

長谷川浩徳(主事) 資産税課より

転出(4月1日付)

佐藤六栄(主事) レクリエーション課へ

**あとがき** 信濃川の河辺植物と併せて60年度の事業報告を掲載しました。信濃川は母なる川として、多くの恵みをもたらし、特色ある河辺の自然環境をつくってきました。魚類相なども豊富で淀川水系について多くの種類が生息しているといいます。これらの自然と人間はどうかゝわってきたか、当館には「信濃川の自然と生活」の常設展示もあります。是非お出かけください。（西山）

N K H (長岡市立科学博物館報) No.49  
昭和61年 3月31日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館  
〒940 長岡市柳原町2番地1  
印刷所 あかつき印刷  
長岡市新産4-4-7